



「偶然からモノを見つけだす能力」

・・・「セレンディピティ」の活かし方・・・

澤泉 重一著 角川書店 2002年 ¥648+税

～ ノーベル賞を生み出す“気づき”を見逃さないために ～

この書物は刊行されてから少し年月が経過していますが、ノーベル賞を受賞された白川英樹博士の講演会で紹介されていたので、私自身過去に研究所で新製品開発の技術者としてアイデアの発想に悩んだ経験がありましたので興味があり読みました。

まず、セレンディピティ (Serendipity) という言葉は日本では馴染みのない言葉と思いますが、「偶然を発見する能力」「予期せぬ幸運」「幸運を見つけ出す力」という意味ですが、何かを発見したという「現象」ではなく、何かを発見する「能力」のことを指します。

内容は難しい科学論からの解説でなく、その言葉の由来を歴史的にひもとき、掘り起こしつつ、同時に「洞察力」という言葉に置き換えて、これを一種の能力として、仕事に、日常生活に、趣味に、言葉遊びに、知的仕掛けとして使っていこうという話です。日常の身の周りの事例からノーベル賞受賞者の見解など、また、セレンディピティの向上に有用な対応などを紹介しています。内容を一部紹介しますと、“気づき”から“発見・創造”までの期間は、短い時は即日、即刻のこともあるが、長いときは数十年もかかることもある。ニュートンがリンゴの落ちるのを見てから万有引力

を発表するまでには20年の歳月が経っているし、ジェンナーが最初の種痘を行うまでには28年の歳月をえている。一方、短期間で結論に達した発見としてはレントゲンのX線で、これは数週間後のことなど。また、人間の発想において、古来「三上の発想」があり、馬上(しじょう)、枕上(ちんじょう)の三上はよい発想が得られると紹介している、現代では通勤電車と入浴中を加えて「二上二中」であろうかとも言う。これらの時には課題が右脳に叩き込まれていることが肝心であると言っている。なお、著者の博覧強記ぶりについては驚かせられます、その起源、歴史古典、映画、科学論、科学史、書籍、新聞、雑誌など多くの情報ソースを駆使し、一寸した日常の場面でどんな場合にどう適用していくのが面白いのかを分かりやすく親しみやすい文章で説明しています。巻末には多くの参考文献が紹介されています。(藪野記)



ATAC活動の内容 PR

ATACは長年の経験により培った独自の技術とノウハウを、中堅・中小企業の方々が抱えられるモノづくり、技術開発、人材育成等の諸問題の解決を支援し、発展に資することを目的としています。

1. コンサルティング

中堅・中小企業の皆様がお悩みのさまざまなテーマについて、コンサルティングを行います。

- ・モノづくり (合理化・5S・品質改善・新製品の開発)
- ・生産管理システムの構築
- ・事業継続計画 (BCP) 作成支援
- ・公的資金の導入支援

2. セミナー開催・講師派遣

従業員教育、経営管理、ISO関連、品質管理などのセミナーを企画・実施し好評を博しています。講演会・研修会などへの講師派遣も行っています。

- ・フレッシュマン・パワーアップ研修 (3日間)
- ・社長懇話会

3. 書籍刊行

- ・ATACの経営便利帳
- ・現場の課題解決はこうする (中堅・中小企業の業務改善例)
- ・中堅・中小企業へのATAC提言集 (1)～(6)
- ・目からウロコのアドバイス ～中小企業経営者への提言～

4. 産学連携のお手伝い

企業の技術ニーズをお預かりして、最適な技術シーズを持つ大学や研究機関などを探し、ご紹介する業務です。

相談無料

まずは、ご連絡下さい

(財)大阪科学技術センター
技術・情報振興部
ATAC事務局

Tel [06-6443-5323](tel:06-6443-5323)

Email atac@ostec.or.jp

URL <http://www.watacne.jp>

ATACニュース、Webに
関するご意見、ご要望など
も、どしどしお寄せ
下さい。

編集後記

★今号では、巻頭に今最も関心の高い未曾有の危機への対処に関する提言を載せました。2頁目にBCP支援活動を、3頁目に専門教育シリーズの一回目として「材料」を載せましたが、しばらくATACの支援活動の紹介を続けさせていただく予定です。(池田)

★ATAC諸先輩からだけでなく、クライアントの方々からも、情報や技術資料を頂戴し、ATACメンバーとして、こんなので良いのかしら?と思う今日この頃です。(長岡)